

ノボル鋼鉄

静岡支店・熱処理センター

大型リフレッシュ計画始動

21年末完了、総投資14億円

ノボル鋼鉄（社長・三上晃史氏）は、今期（2018年6月期）から5年がかりで静岡支店・熱処理センター（静岡市駿河区）の大型リフレッシュ投資を推進する計画で、第一弾となる新事務所棟が2月末に完成した。20年初までに新熱処理センターを稼働開始し、21年末に新しい鋼材倉庫への移転を完了する予定で、総投資額は約14億円を見込む。新熱処理センターは新鋭設備をライン化し、高効率で労働環境にも配慮した仕様とする。

同社は特殊鋼販売、機械加工、熱処理加工を3本柱とする大手特殊鋼問屋。静岡支店は1966年に現在地に移転、71年に熱処理加工も開始し、土地、建屋

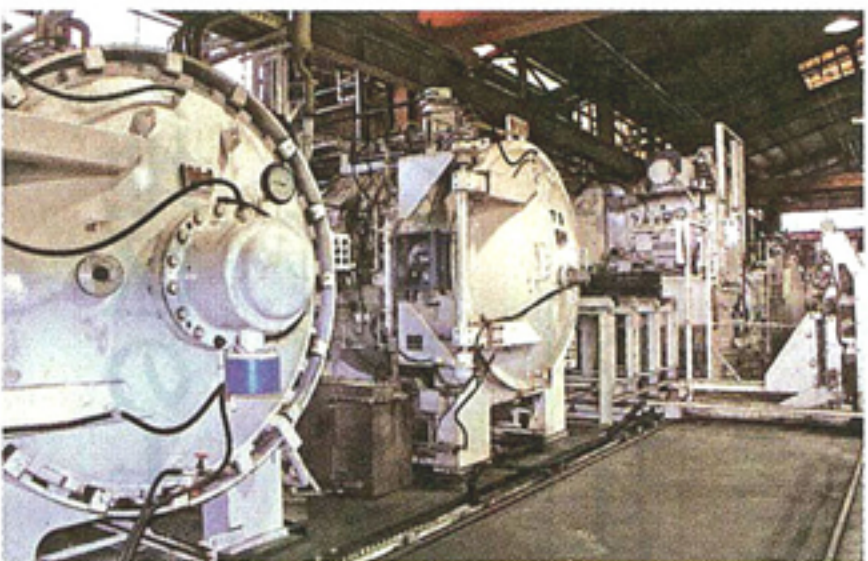
を順次拡張してきた。業務の拡大から建屋が手狭となり、将来にわたり品質安定化を図るには設備の老朽更新も必要になっている。現在地で段階的に建て替

えや新規設備導入を進めるため、順次既存建屋を取り壊して新工場・倉庫を建設する。今後の計画では、鋼材倉庫のうち2棟と福利厚生棟を今秋までに

解体し、その後約1年半をかけて新熱処理センターを建設、移転する。現有設備のうち3割を移設し、真空浸炭窒化炉、真空熱処理炉、真空焼戻炉、窒素ガス雰囲気炉などの新鋭機を増設する。効率的なレイアウトでライン化を進め、労働環境も改善する。

熱処理センター移転後に現熱処理センターと残る鋼材倉庫を解体し、鋼材倉庫を建て直す。約1年半をかけて第1倉庫、第2倉庫を段階的に建設する予定。総投資額のうち設備の導入、移設費用は約8億円を占める。

静岡支店の熱処理加工売上高は年3億円弱で、新体制では3割増を目指す。現状は自動車・産機・治具関連などで繁忙状態にあり、現在の1直体制から最終的に1・5直体制へのシフトアップも図る方針。



静岡支店の新事務所棟①と熱処理センターの一角